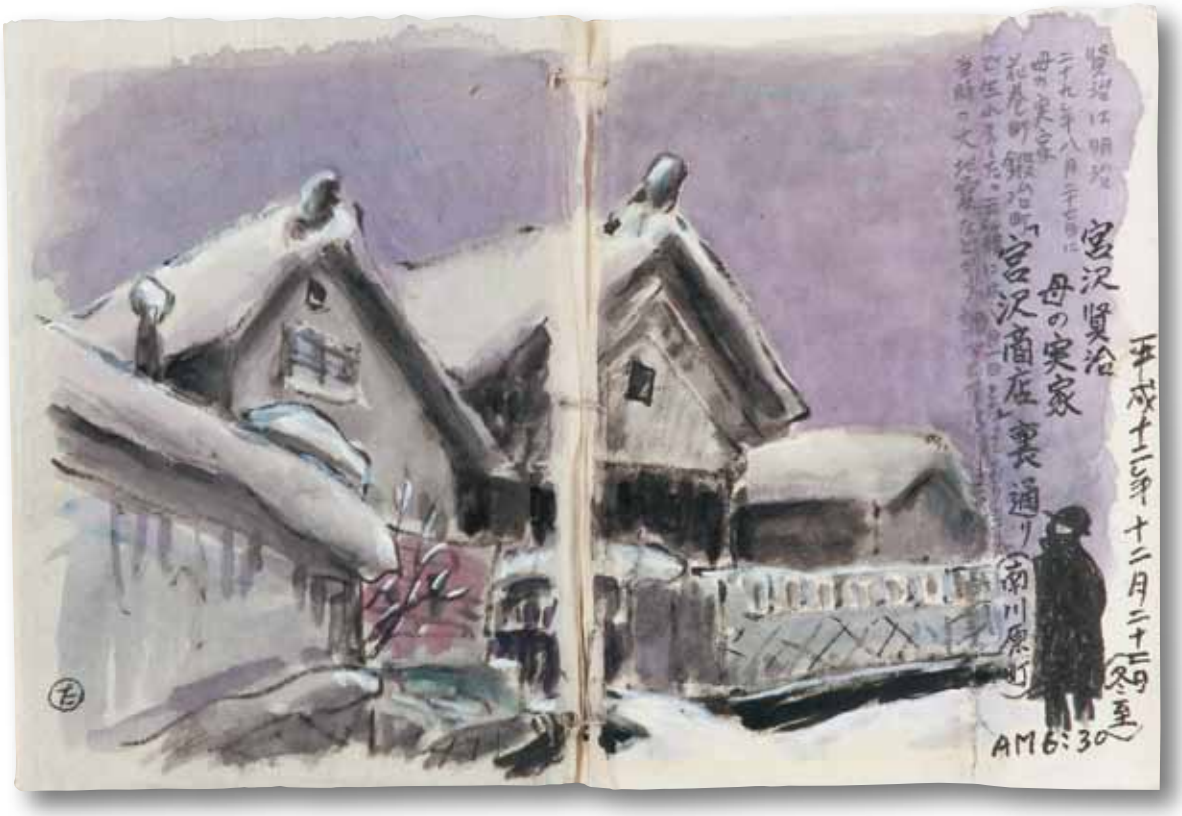

宮沢賢治幻影

光と風と路地

（花巻市南川原町）

画・文／滝田恒男

宮沢賢治の世界を描き続ける画家。自宅に「画廊たきた」を開設。著書に詩画集「宮沢賢治ゆかりの地」「風の巡礼―経理ムベキ山」など。（花巻市里川口在住）

宮沢賢治は母の実家で生まれている。掲載のスケッチはその母の実家（現・花巻市鍛冶町「宮沢商店」）で、南側に面した路地通りから描く。

風格ある蔵が何棟か敷地内に堂堂、歴史を感ずる。又、賢治さんが生まれた時「産湯」として使われた「井戸」が今だに涸れずに使用されていて、賢治生誕祭、そして賢治祭には一般公開されている。

賢治さんの時代とはそう変わらないであろう南川原町の路地から見た母の実家。いい雰囲気の賢治「ゆかりの地」原風景である。

いつまでも「そうっと」このまんまで・・・。

編集後記

From Editor's

日の出前や日没後、まだ辺りが残光に照らされているほんのわずかな、しかし最も美しい時間帯「マジックアワー」。影はなく、辺り一帯が紫色に包まれる。休日の早朝は、自宅ベランダでその風景をカメラに収める。この極めて地味な行為がリセットボタン的役割を果たす。撮影中、冷たい空気を切り裂き直線的な太陽光が東山から降り注ぐ。その暖かな光に包まれながら「よし！」と心を奮い立たせる。「静と動」ポジティブ変換できるその瞬間が自分はたまらなく好きだ。［及川］

何度も足を運んだ西和賀。そこでは大雪降りしきる中「冬仕事」が盛んに行われていた。凍み大根や雪中キャベツ、雪納豆やしめ飾り…豪雪地帯を生きる知恵が生み出した独自の文化だ。農家さんは伝統文化を残し雪国の資源確立の為に尽力している。今現在の収入を得る事よりも未来の人と町の事を考えている。圧倒された。同時に自分の役割に自問自答する日々に終止符を打った。私は報道記者ではない、農協人として伝えるべきメッセージがある。ＪＡの広報でしかできない事を追及し発信していく。［大内］

ぽらーの花巻 Public Relation Magazine Polaro・Hanamaki

平成26年2月10日発行　ホームページアドレス☞http://www.jahanamaki.or.jp/

発行◉花巻農業協同組合／〒025-8504 岩手県花巻市野田316-1 TEL.0198-23-3333（代） 編集◉企画管理部企画開発課・広報編集委員会

印刷◉川嶋印刷株式会社